

シニアの知見・経験の社会還元

ーケミカルエンジニアリングカフェの試み

(SCE・Net) (正) 山崎 徹*

1. はじめに

化学工学会 SCE・Net は、主に化学工業分野で活躍してきた化学工学技術者の集団であり、自らが培った知見、経験をもとに社会貢献を目指している。メンバーの体験に裏打ちされた知識や考え方を現役世代に伝えるボランティアな教育活動は SCE・Net の重要な社会貢献活動の一つと位置付け、知の市場(公開講座のネットワーク)の共催講座、関連講座として一般社会人向けの公開講座を主催し、好評を博している。

さらに若い世代である学生を対象に、シニアの体験を伝えることで、学生が化学工学を学ぶ動機づけになるのではないかと考え、工学院大学のご協力を得て、環境エネルギー化学科の学部学生・院生を対象としたケミカルエンジニアリングカフェ(シニアの講演を聴いた後、学生と懇談を行う機会)の開催を試行した。中尾真一工学院大学教授が化学工学会長を務められていた頃、企業で活躍している化学工学技術者の経験を学生に伝えることで、学生が化学工学を学ぶ動機づけにしたいという趣旨の発言をされていたことに触発された企画でもある。

ケミカルエンジニアリングカフェに参加した学生・院生にアンケートを取り、この試みを評価したので、以下にその結果を報告し、かつ今後の進め方について提案する。

2. ケミカルエンジニアリングカフェの概要

カフェでは、最初に1人のシニアの企業における活動の経験とそこから得られた知見を講演し、その後、シニアと学生がいくつかのグループに分かれて、飲み物を飲みながら自由に懇談するという形で進めた。講演テーマは「私の経験したポリエチレン」、講師は小林浩之氏(SCE・Net 代表幹事)。いくつかの候補の中から、学生に親しまれている汎用素材を対象としているということでポリエチレンを講演テーマに選んだ。

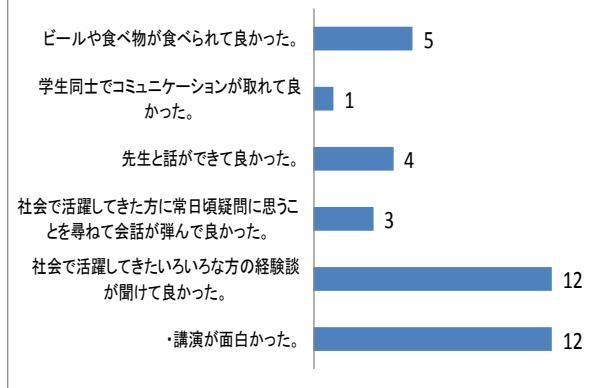
学生の参加者は15名。博士課程1名、修士課程2名、学部4年生6名、3年生6名であった。SCE・Netからの参加者は10名。1時間ほどの講演の後、学生とシニアが5班に分かれて自己紹介後、質疑や懇談を行った(1時間強)。

3. アンケートによる学生の評価

カフェ終了後、学生にアンケートを行った。参加者15名のうち、14名から回収した。

今回のカフェに参加して満足したか聞いたところ、11名が非常に満足、3名が概ね満足と答え、学生が今回の企画に対して満足度が高いことを知った。満足した理由としては、「講演が面白かった」、「社会で活躍し

(2)どのような理由で満足とお答えになりましたか



たことの経験談が聞けて良かった」が双璧であり(図参照)、また化学工学を学ぶ意義を理解したと全員が答えていた。このことから、学生にシニアの経験を伝え化学工学を学ぶ動機づけにしたいとするカフェの狙いは満たされたのではないかとと思われる。ただし、学生たちは懇談会に積極的に参加できたかという点、半数近い学生があまり積極的に参加できなかったと答えている。1グループ当たり学生3人に対してシニアが2人も配されたことで気おくれした面があったのかもしれない。もっとも自由記述では、学生の数が少なくて発言し易かったという肯定的なコメントが書かれ、シニアが多すぎたというような記述は見られなかった。今回参加した学生は、カフェを次に開催する場合も参加したいと答えていた。

また、オブザーバーとして参加された教員からは、シニアからの自己紹介が長すぎる、もう少し若い年代の方の方が良い(今回の参加は70歳代)との指摘があった。次の機会に改めていきたい。

4. 今後の進め方

シニアの社会貢献活動の一つとして、カフェを1回限りの試みに終わらせることなく続けて行きたいと考えている。自由記述で博士課程の学生は、他大学の学生と混合でやったらもっと勉強になると思ったと述べている。今回の企画に参加したシニアもいろいろな大学の学生が集まるところで開催したらもっと活性化するのはないかと感じていた。

現在、いくつかの大学の大学にご協力をお願いして、2回目のケミカルエンジニアリングカフェを開催したいと計画している。ご支援とご協力をお願いしたい。

* yamazaki@dk.catv.ne.jp